黎明期

（二）の一　第一回　漱石

「随分遠いね。元來何處から登るのだ。」と一人が手巾で額を拭きながら立留つた。

「何處か已にも判然せんがね。何處から登つたつて、同じ事だ。山はあすこに見ゑて居るんだから」

と顔も體軀も四角に出來上つた男が無雜作に答へた。

反を打つた中折れの茶の廂の下から、深き眉を動かしながら、見上げる頭の上には、微茫なる春の空の、底迄も藍を漂はして、吹けば搖ぐかと怪しまる、程柔かき中に、屹然として、そうする氣かと云はぬ許りに叡山が聳えてゐる。

「恐ろしい頑固な山だなあ」と四角な躰を突き出して、一寸櫻の枝に身を倚たせて居たが、

「あんなに見ゑるんだから、譯はない」と今度は叡山を輕蔑した樣な事を云ふ。

「あんなに見ゑるつて、見ゑるのは今朝宿を立つ時から見ゑて居る。京都へ來て叡山が見ゑなくなつちや大變だ」

「だから見ゑてるから、好いぢやないか。餘計な事を云はずに歩行いて居れば自然と山の上へ出るさ」

細長い男は返事もせずに、帽子を脱いで、胸のあたりを煽いで居る。日頃からなる厚き日を受けぬ處き領丈は目立つて蒼白い。

「おい、今から休息しちや大變だ、さあ早く行かう」

相手は汗ばんだ額を、思ふ儘春風に曝して、粘り着いた黒髪の、逆に飛ばぬを恨む如くに、手巾を片手に握つて、顔とも云はず、頸窩の辺くるあたり迄、苦茶々々に掻き廻した。促された事には頓着する氣色もなく、

「君はあの山を頑固だと云つたね」と聞く。

「うむ、動かばこそと云つた樣な按排ぢやないか。かう云ふ風に」と四角な肩をいと一四角にして、空いた方の手に柴蝶の親類をつくりながら、喞か我も動かばこその姿勢を見せる。

「動かばこそと云ふのは、動けるのに動かない時の事を云ふのだらう」と細長い眼の角から斜めに相手を見下した。

「さうさ」

「あの山は動けるかい」

「アハ、、又始まつた。君は餘計な事を云ひに生れて來た男だ。さあ行くぜ」と太い櫻の洋杖を、ぴゆうと鳴らさぬ許りに、肩の上迄上げるや否や、歩行き出した。疲せた男も手巾を鞄に收めて歩行き出す。

「今日は山端の平八茶屋で一日遊んだ方がよかつた。今から登つたつて中途半端になる許りだ。元來頂上迄何里あるのかい」

「頂上迄一里半だ」

「どこからか分るものか、高の知れた京都の山だ」

疲せた男は何にも云はずににや〳〵と笑つた。四角な男は威勢よく喋舌り續ける。

「君の樣に計畫ばかりして一向實行しない男と旅行すると、どこもかしこも見損つて仕舞ふ。迚てそこい、迷惑だ」

「君の樣に無茶に飛び出されても相手は迷惑だ。第一、人を迎へ出して置きながら、何處から登つて、何處を見て、何處へ下るのか見當がつかんぢやないか」

「なんの、是しきの事に計畫も何も入つたものか、高があの山ぢやないか」

「あの山でもいゝが、あの山は高さ何千尺だか知つてゐるかい」

「知るものかね。そんな下らん事を。——君知つてるのか」

「僕も知らんがね」

「それ見るがいゝ」

「何もそんなに威張らなくてもいゝ。君だつて知らんのだから。山の高さは御互に知らんとしても、山の上で何を見物して何時間か、る位は多少罷めて來なくつちや、豫定通りに日程は進行するものぢやない」

「進行しなければ遅り直す丈だ。君の樣に餘計な事を考へてるうちには何遍でも遅り直しが出來るよ」と猶さつさと行く。疲せた男は無言の儘あとに後れて仕舞ふ。

滿韓糖業の啓發

十八、日本人と甜菜糖業

諸者或は汝の言は一應理なきに非ねど我同胞は甜菜糖業に關する經驗がなく從つて斯業が果して我同胞に適當するや否やも分らぬ、故に今俄に多大の勞費を投じて之を開始するは危險の業たるを免れないと云はんも、其實我同胞中には既に墨地斯業に從ひ充分の經驗を積んだものも多いのである。往年の北海道に於ける事實は卽ちこれだ。併しそれは失敗に歸したのだからと云ふれば、僕は之を除外して北米に於ける甜菜對我同胞の現狀を擧げやう。コロラド州抔は甜菜栽培者と謂ふべきまで甜菜に關する經驗の學術を修め且相應に其獨特の長所を發揮し得る許りでなく、米國抔に行て實地の經驗を積んだものも容易に之を使用することが出來るに相違ない。加之滿韓に現住する土民は何れも此種の勞働に至極適應して此上なく好都合なことも疑ひなしだ。兎に角甜菜の栽培は指先の仕事で、集約的の農業に屬し所謂小農的に綿密なる勞働の力を用て遂るべきもの。斯業は到底粗放的の農業で唯機械の力許りに依賴して經營する譯に行かないのである。去れは日本人は勿論滿韓の土民抔は此點から見ると實に先天的の甜菜栽培者と謂ふべきであらう。若し又技術者の如きに至りては輒近農業に關する蘊奥の學術を修め且相應に米國抔に行て實地の經驗を積んだものが澤山あつて、甜菜の專門家すら見受くる位だから、是亦少しも心配するに及ばぬ。要するに我國には滿韓の糖業を啓發すべき勞働者乃至技術者が有り餘る程なのだ。

十九、北海道の失敗と滿韓の糖業

論者は又北海道に於ける往年の甜菜糖業の失敗を引證して滿韓に於る斯業經營の前途を危まんも計られねば、僕は此事に就ても一言せざるを得ない。北海道にて甜菜を試植したのは明治三年開拓使立廳の當時で、歐米の變方から其種子を輸入したのである。其結果は左迄善くなかつたが、去りとて甚しく悪いと譯でもなかつたから、十三年に紋鼈製糖會社を建て二十三年に札幌製糖會社を設け政府の保護に浴して農家に向ひ此新輸入の工藝作物を栽培させ、之に依りて製糖を開始したけれども其結果が豫想の如くに甚く行かなかつたので、未だ幾年も經たぬ内に之を休止するの不幸に陷つたのである。フェスカ氏も『北海道には幸なる所以を發見すると相違ない。併し北海道の失敗等に鑑みて深く注意するのは楽より必要なることゝ信ずる。

新刊雜書

○露文尋常小學讀本　露人ボドチーエフ博士は支那語に精通せる人なるが近年日本語研究を思立ち孜々として倦まず其結果眞に人を驚かすものありしが近頃露國同胞にして日本語を修むる者の利益を謀り小學讀本之に日本文の正確なる譯語の適切なる他に其頗を見ず邦語を學ぶ露人の良教科書たるは勿論一般露語研究者の好伴侶たるべし著者は夙に小學日本歴史を翻譯し尚日なからずして高等小學讀日本をも公にすべしと云へば職後寧落の感ある露帝界は多少活氣を呈すべし尚茲に一言著者の注意を請はんとするは日本文讀方にアクセントを附せざる事なり日本語のアクセントは極めて輕微なるものなれば其打方に依りては非常の錯誤を來たし又意義の明瞭を失ふべし本書中アクセントの精確ならざるもの若しくは無くるかなと思はれし箇所少からず例を擧ぐればノコギリ、レンコンセキ、ツの如きコドモ、ハマツチ、スツテソレチナゲテの如きは是なり（さいかい生）（芝露芝公園第十四號地ボドチーエフ、定價一四二十錢）

廣告

家庭の重寶

▲西洋諸國では大抵の家には一と通りの藥品が備へてある例へば重曹とか硼酸とか石炭酸水の類で主婦は之が使用法を心得て居るので大變に便利で經濟上からも衛生上からも利益な事である又多少分量や用法を誤つても元來が劇毒藥にあらざる故危害を厭す恐れは絶無である

▲本邦に於ても近來一般に衛生思想の普及と女子教育の發達の爲簡易なる治療法や薬常藥の使用法を心得ざる者は稀であるが未だ必要たる藥品を取揃へて居る家は僅少の故折角女學校で覺へた衛生法も新聞雜誌又は家庭書類で知りたる有益なる治療法も實地に經驗する機會なく空しく忘却するのである

▲小供が一寸と怪我をした老人が風邪した一々醫師を煩はす程の事でない簡易な手當で全快するが材料が完備して居らぬと藥等一時逃れをする事になる藥も有効であるが中には却て後害を釀す物も無ではない

▲西洋には Before Doctor Comes（醫師の來る迄）と稱する書物が澤山に行れて居る之は急病とか怪我とか其他不意の出來事のある時醫師の來る迄に施すべき手當法を記したもので大抵の病氣は之のみで全快する

▲右の必要上より西洋には旅行携帯用又は家庭常備用の藥類が出來て居る本邦には未だ此の如き便利な物がない來遊の外人なども本邦の藥劑師に注文した實例が澤山ある

▲今般東洋藥劑合資會社より發賣したる家庭藥局は前記の目的にて調製したる完全なる藥函にして英國倫敦の「リース、ロッス」會社の「ホミオ、パシック」を簡約した物である

▲家庭藥局は素人の使用上危害なき尋常藥二十八種類を集めたもので交互配合する時は更に數十種の藥品を構成し日常起り易き身體の異狀に就ては遺憾なく目的を遂する事が出來る

▲家庭藥局には家庭醫師と稱する美麗なる平易の説明書が附屬して居る之には各病の治療養生藥方が詳細に説明してある又急病怪我などの手當法も充分に説明してある

▲家庭藥局は九寸と六寸で深さ四寸の美麗なる小函にて一定の比で藥品を定める物なれば如何なる素人にも使用する事が出來る

▲家庭藥局は定價五圓なれども今般豫約を募集し期限内に申込む人に限り三圓五十錢の廉價にて販賣する尚詳細は東京市下谷區上根岸町の東洋藥劑合資會社に申込む時は直に書類を送付するのである

▲中流以上の家庭は勿論中學校小學校其他多數の職工を有する工場などには一函を備へて置く時は非常の便利と經濟とを自覺する事が出來る

胃腸の病なる長き難症も雪に熱湯を注ぐが如し

胃腸治病劑

本舗　東京市芝區二本榎一丁目角　城南堂　尾瀧隆

前記廣告聯か虛飾無之御實驗の上社會の爲め御傳稱を乞ム

取次　神田鍛冶町　大木合名會社　日本橋通二丁目　中田支店

試用金十錢　三日分二十錢　七日分四十五錢　一日分廿錢　一圓二十錢　五十日分一圓六十錢　全國遠近送無料之述

ムスク香水

本舗　東京日本橋區本石町　松澤ホーサン石鹸

ムスク石鹸

本舗　松澤常吉

乃木ムスク石鹸

本舗　東京市芝區二本榎一丁目角　城南堂　尾瀧隆

東京牛込拂方町（振替貯金四七八八）西條石鹸製造所

大形一個　二十錢　小形一個　十錢

◎乃木ムスク石鹸は其の品質善良なると芳香の最も佳良なるとの點に於て大いに高評を博せり

◎本品は芳香の永く保つ點に於て他の追隨を許さず

◎至る所食料小間物化粧品店に於て販賣所有

◎至る所食料小間物化粧品店に於て販賣所有

登録商標

◎サンデン電氣帶は日本にて幾百民の生命を救助せり

右事實の證明は夥多あり御參考に供す御入用の向は無代進呈即時申込あれサンデン博士の説明と共に

サンデン電氣帶

東京芝區三田綱町二十一　三省堂分院

サンデン電氣帶

本店　東京麻布區霞町　大阪市南區心斎橋筋二丁目　名古屋市南伝馬町二丁目　横浜市本町二丁目　神戸市海岸通一丁目

アクチナ

耳、鼻、咽喉、眼、治療王

効を視力聽力を快復治癒せしむ

アクチナ

株式會社東京麻布區霞町二十一

アドロフ博士新發見肺結核治療法は醫界に也我國公私病院長廿七名の賛家不思議の効果を確認せる全治報告

新紀元

東京芝區三田綱町二十一　三省堂分院

小紀元

東京芝區三田綱町二十一　三省堂分院

株式會社東京麻布區霞町二十一

株式會社

株式會社

株式會社